



奈良県桜井市 長谷寺 寒牡丹

もくじ

- 「備え」……………1
- 「会長時代の20年を振り返って」……………2
- 平成29年度事業経過報告・平成30年度近畿老人福祉施設研究協議会(奈良大会)開催概要のご案内……………3
- 施設の窓……………6・7
- 「奈良県福祉・介護事業所認証制度」をご紹介します。……………8
- 分科会実践研究発表における奨励賞受賞おめでとうございます!……………8
- 編集後記……………8

「備え」

奈良県老人福祉施設協議会 副会長 森川 敬介

備えとは、広辞苑によると「将来おこると予想されることにうまく対処できるよう、前もって準備する。」と書かれている。

自然災害や事件、事故等への備えや身近で起こった出来事に対し、意識して取り組んでいたつもりである。

だが、去る10月22日台風21号による斜面崩落により、当法人が運営する障害者支援施設利用者全員が1ヵ月半の避難生活を余儀なくされた。

施設は、平成22年6月に建替え工事が完了し、利用者の安全・快適性を重視し、太陽光発電や自家発電を備え、備蓄食は職員含め5日分を備えている。全壊で無い限り制約はあるものの生活は出来たと思っていた。

しかし、建物はなんら支障が無いが、崩落が広がれば建物自体に影響が出る可能性があり、安全

性が確保できない状況と判断し、避難となった。全くの想定外である。

最近、「想定外」や「何十年に一度」と言う言葉をよく耳にするが、想定外の事が起これば、もはやそれは「想定内」である。

私たちは、日々安全を意識し事業運営に取り組んでいるが、「想定外」や「何十年に一度」を目の当たりにした事象については「想定外」を「想定内」として、取り組まなければならない。

近い将来起こるであろうと言われている南海トラフを震源とする大地震等による大規模災害や防犯、感染症、人材確保等、数えればきりが無い。

平時の時こそ常に意識し、円滑な事業運営が出来ればと思う。

「備えあれば患いなし」である。

「会長時代の20年を振り返って」回顧録2

奈良県老人福祉施設協議会 顧問 辻村 泰範

～介護保険制度へ～

平成9年4月に会長に就任すると、県会長という立場で近畿老人福祉施設協議会の協議員、全国老人福祉施設協議会の協議員として他府県の皆さんと顔をあわせることになりました。それまでも結構厚かましく研修会やその他の会議でも質問したり、意見を述べる機会が多かったので少し目立っていたのでしょうか。5月の全国老施協の総会に出席した際に制度政策委員を命じられました、当時の全国会長は埼玉県の石井岱三氏（故人）でした。

折しも介護保険制度の本格施行に向けて具体的な運営基準案の検討などが緒についたところでした。委員会には毎回厚生省（現厚生労働省）の老健局計画課の専門官や計画官、課長補佐などが出席し、頻繁に意見交換をして逐条で施設の運営基準の草案を作成しました。活字になって出てきてからでは遅いとの委員長の指示で、毎回委員長と条文案をやりとりしながら文案を作成して議論のテーブルにあげて意見交換をしました。成案となっていく過程で当時はかなり現場の意見を汲み取ってもらったと思います。年を越して1月には厚生省のチェックを受けて老施協版のQ & Aを出すことになりました。これはほとんど私が作成したものでその年のお正月は返上状態となっていました。今ならメールでやりとりできるものが、当時はファクス送信でしたから、時間もペーパーも随分使いました。でも、おかげで介護保険制度のことについてはかなり詳しくなったと思います。

会長を引き受けると様々な役職やお役目が付いて回ってきます。平成9年の10月には介護保険制度運用の要である介護支援専門員を養成する講座の中身が固まってきました。そこで厚生省は各府県から代表者を集めて介護支援専門員の養成講座の指導者を養成するための研修会を開催することになり、県から最初の研修会に派遣されました。受講修了証を頂きましたが、これは養成講座の指導者として認めるもので、ケアマネの資格を認めるわけではないというので、改めて第1回のケアマネの試験を受けることになりました。運営基準で施設には必ずケアマネを1名以上置かなければならないと定めていましたので、相談員や介護士が不合格になってケアマネがいなくなることになっては大変だ、念のためにと多くの施設長さんがケアマネ資格を取るために受験したという事情がありました。

介護保険制度の導入に向けて、在宅福祉サービスや施設福祉サービスのケア内容の標準化が重要な課題となっていました。このため各県ではサービス評価委員会を設けて各市町村や施設を実地訪問してサービス提供の実施内容を視察し、意見交換をしながらサービスの平準化を進めることになりました。奈良県では平成8年から在宅福祉サービス評価委員会を、平成9年から施設福祉サービス評価委員会を設け全ての市町村と施設を巡回しました。委員会は12年3月に任務を終えましたが、各施設のケアの実態を見聞きして驚くことも多々ありました。

制度導入がもたらした成果の一つとして介護の科学化を上げることができます。今では当たり前のことですが、要介護度に応じた個別ケアの実現のためにお年寄り一人一人をアセスメントする科学的な手法や、ニーズに応じて提供すべきケアの科学的根拠など老施協が実施する研修の内容も大きく変わっていったように思います。これらのことに呼応して行政の監査体制も見直されていきました。

平成9年4月に近畿老施協の常任協議員に就任して研修委員長を務めることになりました。当時の近畿の会長は全国の副会長でもあった和歌山県の切土清之氏（故人）でした。今思えば、制度導入の時期でもあり研修の内容ややり方も随分見直しをしたように思います。

近畿ブロックはかつて大阪の岩田克夫氏（故人）が会長として強いリーダーシップを発揮されてまとめ上げられてきた経緯もあり、「近畿は一つ」を合言葉に今も強い結束力を持っています。岩田会長が全国老施協の会長を退かれた後は、全国とは少し離れたスタンスで研修に力を入れた組織運営に努めてきました。切土会長が退かれた後は大阪の三上了道氏が近畿の会長に就任されて私が副会長として三上会長の補佐をさせていただきましたが、三上会長は特に研修を重視される方であったこと、社会福祉法人の地域貢献事業のために奔走されたことが強く頭に残っています。残念なことに任期途中の平成22年の春に事故で倒れられ、4月から近畿の会長を引き受けることになりました。

それまでの措置制度から平成12年4月からの介護保険制度への変革は、我々老人福祉を担う世界の者にとっては革命的な出来事であったと言えます。そういう大きな時代変化に遭遇したということもあったのでしょう、全国老人福祉施設協議会という大組織も荒波に翻弄された時代であったと言えるのかもしれません。

当時、全国会長の改選をめぐる組織は大揺れし、私たちが擁立した候補者は選挙で敗れ結局徳島県の中村博彦氏（故人）が選出され、組織を束ねていくことになったのです。

後に参議院議員となられた彼とは幾つかの点で手法や考えを異にしていたため、会議の席上でも意見が対立する場面がしばしばあったりもしました。傍目には随分対立しているように見えていたのかもしれませんが、実際は分かり合っていたところもあったような気がします。

いろんなことがありましたが、こうしたことが奈良県老施協にとって良かったのかどうか分かりませんが、全国の中で奈良県が一目置かれることになったとするのは独りよがりの見方でしょうか。

次号へつづく

奈良県老人福祉施設協議会 平成29年度事業の経過報告（平成29年4月～12月） 平成30年度近畿老人福祉施設研究協議会（奈良大会） 開催概要のご案内

■平成29年度事業の経過報告（平成29年4月～12月）

4月

●生活相談員いとも（第14回）／職種別研修委員会主管

平成29年4月21日（金）、県社会福祉総合センターにて開催し、14名のご参加をいただきました。

テーマ「スーパービジョン（ワーカーがワーカーらしくなる取り組み）Part2」

助言者 龍谷大学短期大学部 早川 明 氏

6月

●介護福祉士ファーストステップ研修（1・2日目）／職種別研修委員会主管

平成29年6月20日（火）・21日（水）、県社会福祉総合センターにて開催し、会員内外36名のご参加をいただきました。

テーマ「高齢者の尊厳と介護倫理」

講 師 特別養護老人ホームゆあほうむ様原 玉利 佳代子 氏

●生活相談員いとも（第15回）／職種別研修委員会主管

平成29年6月30日（金）、県社会福祉総合センターにて開催し、26名のご参加をいただきました。

テーマ「施設入所に関して」

助言者 龍谷大学短期大学部 早川 明 氏

7月

●栄養士研究会（第1回）／職種別研修委員会主管

平成29年7月3日（月）、県社会福祉総合センターにて開催し、46名のご参加をいただきました。

内 容 ①講演「介護福祉における管理栄養士・栄養士の役割と今後の期待」

講 師 奈良県老人福祉施設協議会 会長 植田 誠 氏

②次期役員選出について

●地域密着型サービス連絡会（第1回）

平成29年7月6日（木）、
橿原公苑ジョギング&サイクリングステーションにて開催し、21名のご参加をいただきました。

①「テーマに沿ったグループワーク」②「参加施設間の意見交換、発表」③

「その他」をテーマに意見交換を行いました。



地域密着型サービス連絡会

●介護職員実践講座（第1回）／職種別研修委員会主管

平成29年7月19日（水）、県社会福祉総合センターにて開催し、会員内外90名のご参加をいただきました。

テーマ「介護の基本（尊厳・倫理）」

講 師 社会福祉法人カトリック聖ヨゼフ・ホーム 総合施設長 平岡 毅 氏

テーマ「介護に必要な制度の理解」

講 師 養護老人ホーム梅寿荘 施設長 松岡 利和 氏

●介護福祉士ファーストステップ研修（3・4日目）／職種別研修委員会主管

平成29年7月25日（火）・26日（水）、かしはら万葉ホールにて開催し、37名のご参加をいただきました。

テーマ「ニーズと行動への気づきと対応」

講 師 養護老人ホーム梅寿荘 主任生活相談員 今井 康順 氏

8月

●施設長連絡会議（第1回）

平成29年8月4日（金）、橿原観光ホテルにて開催し、92名のご参加をいただきました。全国・近畿老施協の動向、委員会・部会活動の報告・検討等と共に、講演会を実施しました。

講演テーマ「介護保険・医療制度改革のゆくえ」

講師：（株）亀岡合同総研 取締役 岩井 幸三 氏

●生活相談員いとも（第16回）／職種別研修委員会主管

平成29年8月21日（月）、
県社会福祉総合センターにて開催し、14名のご参加をいただきました。



テーマ「施設入所に関して Part2」

助言者 龍谷大学短期大学部 早川 明 氏

●介護福祉士ファーストステップ研修（5日目）／職種別研修委員会主管

平成29年8月25日（金）、県社会福祉総合センターにて開催し、36名のご参加をいただきました。

テーマ「コミュニケーションの方法と応用」

講 師 特別養護老人ホーム水杜 植村 宏光 氏

●介護職員実践講座（第2回）／職種別研修委員会主管

平成29年8月28日（月）、県社会福祉総合センターで開催し、会員内外96名のご参加をいただきました。

テーマ「リスクマネジメントと介護職員の健康管理」

講 師 特別養護老人ホーム 水杜 施設長 植村 宏光 氏

介護老人保健施設ルポゼマきの 事務長 藤井 道子 氏

テーマ「チームケア、記録の書き方」

講 師 テンダーヒル御所わかば館 館長 鶴田 浩史 氏

9月

●機関紙「あおによし」の発行／情報発信委員会主管

第28号 平成29年9月発行 発行部数 2244 部

配布先 会員施設、各市町村行政、老人福祉センター、各市町村社協等853ヶ所

●特別養護老人ホーム施設状況調査

（調査期間 平成29年9月）／サービス向上委員会主管

平成29年4月～9月現在の特別養護老人ホームの施設状況について調査を実施しました。

調査内容：職員状況／入退所状況／入所者状況／待機者状況／ショート利用状況 等

●介護福祉士ファーストステップ研修（6・7日目）／職種別研修委員会主管

平成29年9月21日（木）・22日（金）、県社会福祉総合センターにて開催し、会員内外35名のご参加をいただきました。



ファーストステップ研修

●介護福祉士ファーストステップ研修修了者フォローアップ研修／職種別研修委員会主管

平成29年9月28日（木）、県社会福祉総合センターにて開催し、28名のご参加をいただきました。

講師 社会福祉法人カトリック聖ヨゼフ・ホーム 総合施設長 平岡 毅 氏

テーマ 「職場間連携の実践的展開」

講師 ケアハウスあくなみ苑 施設長 田中 将史 氏

テーマ 「家族や地域支援力活用と強化」

講師 社会福祉法人祥水園 北野 耕一 氏

10月

●事務職員研修／職種別研修委員会主管

平成29年10月6日(金)、かしはら万葉ホールにて開催し、78名のご参加をいただきました。

テーマ 「改正個人情報保護法とその留意点」

講師 (株)福祉規格総合研究所 山本 伊都子 氏
(認定プライバシーコンサルタント)

●養護老人ホーム 生活相談員連絡会／養護部会主管

平成29年10月10日(火)、県社会福祉総合センターにて開催し、12名のご参加をいただきました。養護老人ホームの現状と課題について情報交換を行うと共に、研修の企画を話し合いました。

●介護福祉士ファーストステップ研修(8・9日目)／職種別研修委員会主管

平成29年10月12日(木)・13日(金)、県社会福祉総合センターにて開催し、35名のご参加をいただきました。

テーマ 「観察・記録的的確性」

講師 特別養護老人ホーム国見苑 施設長 山本 茂雄 氏

テーマ 「セーフティマネジメント」

講師 特別養護老人ホーム水社 施設長 植村 宏光 氏

●介護職員実践講座(第3回)／職種別研修委員会主管

平成29年10月16日(月)、県社会福祉総合センターにて開催し、会員内外75名のご参加をいただきました。



介護職員実践講座

テーマ 「高齢者の病気の理解」

講師 元大和高田市立病院看護局長

元特別養護老人ホーム慈光園 副施設長 油谷 洋子 氏

テーマ 「高齢者のからだと機能訓練」

講師 奈良リハビリテーション病院 部長 本村 清二 氏

●生活相談員いとも(第17回)／職種別研修委員会主管

平成29年10月20日(金)、県社会福祉総合センターにて開催し、22名のご参加をいただきました。

テーマ 「生活相談員の役割とは」～12月実施予定生活相談員研修に向けてのブレインストーミング～

助言者 龍谷大学短期大学部 早川 明 氏

●施設長連絡会議(第2回)

平成29年10月24日(火)、リガーレ春日野にて開催し、88名のご参加をいただきました。全国・近畿老施協の動向、委員会・部会活動の報告・検討等と共に、サービス向上委員会主管で講演会を実施しました。

テーマ 「施設が行うサービスの質向上とは」 伊谷 俊宜 氏

講師 (株)スターコンサルティンググループ 経営コンサルタント

伊谷 俊宜 氏



11月

●平成30年度施策並びに予算に関する要望書提出／情報発信委員会主管

平成30年11月6日(月)に奈良県知事・奈良県議会議長、平成30年11月28日(火)に奈良市長・奈良市議会議長・奈良市議会厚生消防委員会委員長に対して平成30年度施策並びに予算に関する要望書を提出しました。

●特別養護老人ホーム待機者状況調査

(調査期間 平成29年11月)／サービス向上委員会主管

平成29年11月現在の特別養護老人ホーム待機者状況調査を実施しました。

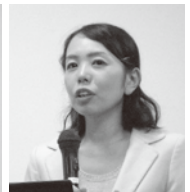
調査内容:現在の生活場所／現在の入所希望の有無／他施設申込数 等

●看護職員研修／職種別研修委員会主管

平成29年11月2日(木)、県社会福祉総合センターにて開催し、48名のご参加をいただきました。



小森 智江 氏



松村 麻衣子 氏

テーマ 「看取り介護への支援」

～最期を迎えていただくにあたっての取り組み～

①「多職種への看取り教育」

講師 医療法人 豊生会 介護老人保健施設であほうむ吉野

看護課長 小森 智江 氏

②「看取りに関わる職員のメンタル支援」

講師 一般財団法人 信貴山病院法人本部 精神科医療研究部長

(公益法人日本看護協会 精神専門看護師)松村 麻衣子 氏

●「なら介護の日2017」啓発活動事業への参加／情報発信委員会主管

平成29年11月3日(金)、奈良100年会館・中ホールにて開催された啓発活動事業へ参加しました。

●第30回奈良県老人福祉施設職員研究会議／テーマ別研修委員会主管



山本 左近 氏



研究分科会発表

平成29年11月13日(月)、ホテル日航奈良にて下記の内容で開催し、会員内外304名のご参加をいただきました。

テーマ 「人と人との結びつき。心に寄り添う関係をめざして」～利用者、高齢者、職員が共に笑顔あふれる暮らしをめざして～
記念講演 「世界のレースから、地域の医療福祉へ」

医療法人さわらび会／社会福祉法人さわらび会

統括本部長 山本 左近 氏

研究分科会発表(5分科会) 26施設37名による発表

●介護職員実践講座(第4回)／職種別研修委員会主管

平成29年11月20日(月)、県社会福祉総合センターにて開催し、会員内外86名のご参加をいただきました。

テーマ 「認知症ケア」

講師 デイサービス リターン 管理者 竹原 美幸 氏

テーマ 「口腔ケア」

講師 特別養護老人ホームあじさい園 園長 松村 清子 氏

●介護福祉士ファーストステップ研修(10・11日目)／職種別研修委員会主管

平成29年11月21日(火)・22日(水)、県社会福祉総合センターにて開催し、会員内外36名のご参加をいただきました。

テーマ 「介護職員の健康・ストレス管理」

講師 介護老人保健施設 ルポゼまきの 事務長 藤井 道子 氏

テーマ 「中堅職員としてのリーダーシップ」

講師 特別養護老人ホーム延寿 主任生活相談員 小河 良 氏

●栄養士研究会(第2回)／職種別研修委員会主管

平成29年11月30日(木)、奈良県産業会館にて開催し、59名のご参加をいただきました。

テーマ 『終末期における食事支援を考える』

①「“えいよう”を物語から見つめなおす」

講師 社会医療法人平和会吉田病院 地域緩和ケアサポートきずな

内科医師 加納 麻子 氏

②「食べることも生きる喜び」

講師 社会医療法人奈良万葉会 すまいる保育園

園長 宮谷 正子 氏

12月

●生活相談員研修／職種別研修委員会主管

平成29年12月6日(水)、かしはら万葉ホールにて開催し、41名のご参加をいただきました。

テーマ 「生活相談員の役割とは」

～生活相談員の専門性を見つめ直す～

講師 元梅花女子大学 植田 寿之 氏

●施設長連絡会議(第3回)

平成29年12月11日(月)、橿原観光ホテルにて開催し、89名のご参加をいただきました。全国・近畿老協の動向、委員会・部会活動の報告・検討等と共に、特養部会主管企画として、行政説明・意見交換を実施しました。

特養部会主管企画内容

- 1.行政説明 第7期奈良県介護保険事業支援計画策定の進捗状況について
- 2.奈良県福祉・介護事業所認証制度について
- 3.外国人を含む介護人材について

●オープンセミナー／養護部会・軽費ケアハウス部会主管

平成29年12月13日(水)、県社会福祉総合センターで開催し、会員内外136名のご参加をいただきました。



テーマ「養護、軽費老人ホーム(ケアハウス)についての学びとわかし」～地域包括ケアというしくみの中での役割と立ち位置とは～

内容 基調報告

奈良県老人福祉施設協議会 顧問 辻村 泰範 氏

講演「高齢者の貧困・孤立の実態と福祉施設・職員に問われているもの」

明治学院大学 社会学部社会福祉学科 教授 河合 克義 氏

オープンディスカッション

「施設に“繋ぐ”という方法とその支援のポイント」

～施設を“活用する”という視点の学びとわかし～

進行・問題提起 社会福祉法人カトリック聖ヨゼフ・ホーム

総合施設長 平岡 毅 氏

発題者 <養護(一般)> 美吉野園 瀬貝 聖 氏

<養護(盲)> 慈母園 森 史子 氏

<軽費> 長命荘 要 早苗 氏

<ケアハウス> 第二慈母園 隅田 憲孝 氏

●生活相談員いとも(第18回)／職種別研修委員会主管

平成29年12月15日(金)、県社会福祉総合センターにて開催し、13名のご参加をいただきました。

テーマ 「働きやすい職場作りのために」

～より効果的なスーパービジョンの活用方法～

助言者 龍谷大学短期大学部 早川 明 氏

●地域密着型サービス連絡会(第2回)

平成29年12月20日(水)、県社会福祉総合センターにて講演会を実施し、会員内外より45名のご参加をいただきました。

テーマ 「地域密着型サービスの役割と今後のあり方&

中小社会福祉法人による連携事業の試み」

講師 社会福祉法人グループ リガレ本部

地域密着型総合ケアセンターきたおおじ

代表 山田 尋志 氏

平成30年度近畿老人福祉施設研究協議会(奈良大会) 開催概要のご案内

大会テーマ 『つながり』 ～共に創り、伴(とも)に生きる～

日程 平成30年7月26日(木)～27日(金)

主催 近畿老人福祉施設協議会

奈良県老人福祉施設協議会

参加費 大会参加費／1人 10,000円、

情報交換会費／1人 10,000円

参加対象 近畿老人福祉施設協議会会員の老人福祉施設関係者、老人福祉行政関係者、保健医療機関関係者、各府県並びに市町村社会福祉協議会関係者、その他本研究協議会の趣旨に賛同し参加を希望する者

会場 なら100年会館周辺施設

プログラム(予定)

1日目(全体会／なら100年会館／12:30～)

・オープニングアトラクション

・開会式典

・情勢報告 公益社団法人全国老人福祉施設協議会

・講演①「奈良は福祉の原点ー聖武天皇・光明皇后と行基菩薩」
奈良県立図書情報館館長、国際日本文化研究センター

千田 稔 氏

・講演②「1人1人が願う“自立”を叶えるための伴走型介護の実現について」(仮題)

元厚生労働省 福祉人材確保対策室長、

「保健医療2035」策定懇談会委員

マッキンゼー・アンド・カンパニー

シニア・クライアント・アドバイザー 武内 和久 氏

・次期開催滋賀県挨拶・閉会式(17:00終了予定)

・情報交換会(ホテル日航奈良／18:30～)

2日目(研究分科会／なら100年会館・ホテル日航奈良他／10:00～)

・9分科会に分かれ実施(13:00終了予定)

施設の窓

施設職員インタビュー



「EPA(経済連携協定)で人材確保」

特別養護老人ホーム清寿苑
主任生活相談員(EPA担当) 鷺尾 元康 さん

8年後には38万人の介護人材が不足すると言われていますが、当グループではEPA（経済連携協定）の1期生（平成21年）から受け入れています。特別養護老人ホーム清寿苑では2期生から受け入れています。今まで5名を受け入れ、3名が介護福祉士合格、2名は平成27年に来日し、現在受験のため勉強中です。合格者3名のうち1名は結婚のため母国に帰国しましたが、他の2名は現在も働いています。

入所さんが受け入れてくれるのか心配しましたが、何も問題はありませんでした。介護福祉士の試験を合格しないと日本に残ることができないので、これまでの経験から言うと、合格するためには来日時に日本語能力試験レベルN3（日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる）程度の日本語能力と施設の生活支援、勉強の支援が大切だと思います。

現在、当施設で働いている外国人介護福祉士、外国人介護福祉士候補者4人へのインタビュー

Q1：日本に来て日本の生活に困ったことはありますか？
何に困りましたか？

A1：言葉と漢字に困りました。
物価が高いのにびっくりしました。
特にありません。

Q2：仕事に慣れるまで苦労したことは何ですか？

A2：1つ1つ覚えるのに苦労しました。
利用者と職員が関西弁なので何を言われているか分からなかったです。

Q3：生活や仕事に慣れるまで誰に相談しましたか？

A3：スタッフや日本語の先生。
EPAの先輩。

Q4：介護の仕事は楽しいですか？今後もこの仕事を
続けていきたいですか？

A4：毎日ではないが楽しいです。続けていきたいです。
仕事は大変ですが楽しいです。続けていきたいです。
楽しいです。やってよかったと思っています。
介護という面だけではなく、人間性にも大きく
感じるものがありました。

Q5：あなたの今後の目標はありますか？

A5：利用者さんにこの人だったらと言われるスタッフ
になることです。
国家試験に合格して介護福祉士になることです。
国際的に幅広く活躍したいと思っています。

Q6：新しくEPAに参加する人に支援してほしいこ
とはありますか？

A6：国家試験で日本語の理解力はとても大切なので、
日本語教育の支援が大切だと思います。
日本文化を教えてもらいたいです。
施設での勉強時間を増やしてほしいです。

＜施設で支援していること＞

- 最低限生活できるように用意しておくこと
住まい・洗濯機・冷蔵庫・エアコン・なべ・
フライパン・食器・寝具・パソコン等
- 勉強時間
仕事で週2回程度勉強時間を取る
- 受験前の勉強の支援
週4時間先生を付けて勉強する
- 更新手続き
- 週1回の通学支援
- 多文化交流会の開催
- 相談支援(住まい・職場環境等について相談
できる窓口設置)
- 希望者は試験までの一時帰国(有給利用、自費)

施設の窓

施設職員インタビュー



「利用者は家族。だから一緒に生きていく。」

ケアハウスみつえ秀華苑
生活相談員 寺西 祐二 さん

ケアハウスみつえ秀華苑で働く寺西さんに介護の仕事について聞きました。

Q1：介護の仕事に就くきっかけは？

A1：「もともと人の役に立ちたいという意識が強かった」

寺西さんは、もともと人の役に立ちたいという意識が強く、それで介護の仕事を目指されました。介護職として20年勤務、みつえ秀華苑に勤務して5年。「自分には介護という仕事は天職です」とほほ笑まれました。

Q2：介護職の主な仕事は？

A2：「利用者さんの身の回りの補助やレクリエーションの実施、生活相談、事務補助」

寺西さんは、主に11名の利用者の介護に携わり、食事や排泄など生活面の補助やレクリエーションの実施など利用者が日々快適に過ごせるようにされています。また、利用者の生活相談の仕事も並行して行っており、利用者の契約手続きの補助など事務的な仕事にも尽力されています。

Q3：介護職の一日は？

A3：「チームワークで一人ひとりを支える」
「やはり利用者第一で考えています。」

という寺西さん。朝出勤したらまず、利用者一人ひとりへの挨拶。顔色を見て「疲れているの、大丈夫？」や「何か悩み事があるの？」と声かけをされ、その後、夜勤スタッフとの引き継ぎ、他のスタッフと利用者の情報を共有。利用者が生活に困らないようにしっかりチームでケアをされています。

Q4：介護職の魅力とは？

A4：「利用者に寄り添い奇跡を起こす」

「施設では、長くご利用になっている方が多く、家族みたいな付き合いをしているんです」と笑顔を見せる寺西さん。「特に不思議なのが、ここの施設に寝たきり状態で入所された方が、みんなの介助によって歩けるようになるまでに回復されたり、認知症のひどい方でも生活を共にすることで、意思疎通が図れるようになったりと、普段では味わえない感動がここにはあります」と目を輝かせられました。

Q5：介護職を目指す人に一言

A5：「利用者は家族と同じ」

「介護の仕事は、仕事として捉えるのではなく、“利用者は家族なんだ”という気持ちで接すれば、自分が何をすればいいのかおのずと分かってきます」と未来の介護職員にエールを送られました。利用者へのケアは、寺西さんの人生そのもの。施設は優しい光に満ちています。



「奈良県福祉・介護事業所認証制度」をご紹介します。



奈良県では、福祉・介護人材の確保を図ることを目的として、平成28年12月から「奈良県福祉・介護事業所認証制度」の運用が始まっています。福祉・介護事業所における人材育成の取組や就労環境等を求職者等から「見える化」することで、求職者が安心して応募、就職できるようにするとともに、福祉・介護事業所の意識改革、職員の就労環境や処遇等の向上を図ろうというものです。

対象となるのは、奈良県内にある高齢者福祉サービス、障害福祉サービス及び児童福祉サービス事業所等です。人材育成の取組や就労環境等に関する6分野20項目の評価項目について、一定の認証基準を満たしている事業所に対し、県知事名で認証が与えられます。

制度の運用開始以来、平成29年12月までにすでに26法人188事業所が認証を受けていますが、そのうち介護関連事業所は23法人で、さらにそのうちの15法人は老施協の会員です。

奈良県老施協では、今後も会員施設に対して本制度の認証を受けることを推奨していくことにしています。「安心して応募・就職できる施設」であることを、ひとりでも多くのみなさんに知っていただけることを願って。

平成29年度全国老人福祉施設研究会議（高知会議）

分科会実践研究発表における奨励賞受賞 おめでとうございます！

平成29年10月17日（火）～18日（水）に開催されました平成29年度全国老人福祉施設研究会議（高知会議）分科会での実践研究発表におかれまして、奈良県施設職員さんが奨励賞を受賞されました。誠におめでとうございます。

受賞名 奨励賞

（分科会）第1分科会『伴走型介護の確立とエビデンスに基づくケアの実践』
分散会1（認知症ケアの実践）

（施設名）特別養護老人ホームゆあほうむ榛原

（受賞者名）浦谷 陽介 さん

（発表テーマ）「ケアの質とセーフティマネジメント」

～入居者様が安全に安心して過ごせる伴走型自律支援の実現に向けて～

編集後記

平成30年、昭和から平成へ懐かしく思い出す節目の年を迎えました。

今年は介護報酬と医療報酬、そして障害福祉サービス等報酬のトリプル改正の年。人口のボリュームゾーンである団塊の世代がすべて75歳に突入する、「2025年問題」もそこまで来て、社会全体でどのように高齢者を支えていくのか待ったなしの検証と対策が求められていく中、どのような報酬改定になるのか、また人材の参入に反映されるのか大いに気になるところです。介護職員の人材不足はこの「2025年問題」のそのひとつの象徴かもしれません。このような社会変化の中、本誌「あおによし」の発行意義や役割の大切さを実感しています。さて、この度の介護報酬改定には介護ロボットの種類「見守りセンサー」の導入が評価対象になるようです。「介護は人の温もり、人の手でするもの」という認識がありますが、担い手不足が懸念される昨今、将来は人の言葉に反応を示したり会話を楽しんだりすることが出来る「コミュニケーションロボット」を用いた介護も評価されるのではと想像します。

ある日のこと、ご利用者が集うフロアから、童謡を歌う声が聞こえてきた。♪雪やこんこ あられやこんこ——。職員がご利用者の背中に手をあて音頭を取りながら一緒に歌っていた。息つく暇もなく、続いて♪うさぎ追いつかの山——。音痴な私は隣で無意識に鼻歌を歌う。歌い終わって、ふたりにはほほ笑みがこぼれた。人材不足の中、残念ながら近頃はこんなにゆったりとした場面が珍しい。近い将来、見守り機能も備えた「コミュニケーションロボット」の登場で私の歌に合わせて心を癒してくれることを期待します。もしかしたら、私の老後は相性のいいAIロボットと二人暮らしになるかも！？と考えたりもします。（笑）

終わりに、第29号の発行に際し、ご協力いただきました皆様にお礼を申し上げますと共に、拙い文ではありますが編集後記とさせていただきます。最後まで、「あおによし」をお読みいただき誠にありがとうございました。

桃寿園 南本孝二

